



議会報告会 第一グループ 記録

白子小では昨年7回ほど運営委員会を行った。自治会長やPTA、防犯ネット関係の方で委員会を組んで行った。今年は、前年出た意見や問題点をいかにして実行していくかという方向で現在進行中。学校だけでは道徳等の教育は出来ないで、地域として支えていく。自治会では白子小を使用して年3回ほどイベントを行っている。遊びを通して子どもと触れ合うことが大切。総会資料等を学校に提出し、自治会の行事を学校に把握してもらったりしている。学校運営委員会だけでは処理できない問題も多々あるので、市や教育委員会、地区社協や自治会等様々なところと協力が必要。多少お金がかかることもあるので理解してほしい。

北原小では3月5日に第一回学校運営協議会を開き、本年度の学校の経営方針をご承認いただいた。経営方針の中に、「地域を大切に子ども」を追加し、目標値とし、「目指す地域像」を設定した。まだ未定の部分については、本年度一年かけて練り上げようと思う。北原小のコミュニティスクールは、学校応援団、育てる会、自治会。さざんかの会、学校評議員、いじめ対策委員、不登校対策委員等で構成されており、全てのことが一度会議をやれば具体策が出る。学校運営協議会が開催されたときは授業参観にする等方策をとっている。地域との繋がりは今あるものを最大限活用していきたい。

5小は基本的には同じ事を行っているが、多数ある自治会同士の連携が取れていないこともあり、そういうところを強化していく。運営協議会の問題の一つとして何とかできればと思っている。職員も若い職員が増えてきているので積極的に自治会行事に参加する人も増えている。

学校評議員と学校運営協議会の違いがわからなかったが、いざスタートしてみると内部として関わるか外部として関わるかの違いがある。学校運営協議会では、一つの課題に対して地域としてどうするかということがより強くなっている。まだ手探りだが、一つ一つ問題提起できたものを意見を出し合っていたらいいと思う。学校で子どもたちを中心に集まっているが、それが地域づくりに繋がっている。

どういった視点で関わっていくかが重要。子どもを中心にしていかなければいけないが、学校とPTAの両輪で進んでいくのは動かしがたいこと。コミュニ

ティスクールは学校と地域を繋ぐツールになるのではないかと思う。自分の地域を知ることは子どもにとっては財産である。大人にとっては後継者の育成となり、遊びから教養へと繋がる。地域の文化を学校で咀嚼しまた地域に返すことがいい地域づくりに繋がると思う。子どもの目線で考えていきたいと思う。

白子小の運営協議会を一年やって、学校、地域、家庭の連携がいかに大切かを知った。学校の先生方はよく働いており疲れきっている。地域とのつながりも大事だが、先生本来の仕事、子どもを中心にすることが重要だと思う。子どもたちには自分たちの郷土を愛してほしい。清水かつらや大石まことが白子小エリアに住んでいたこと等を学校を通じて子どもたちに教え、自分の地元で素晴らしい人がいたことを知り、郷土を愛することに繋がるのではないかなと思う。

3小では去年何度か会議に出ていて性犯罪等が行われたときの対策など、具体的な事案を元にコミュニティスクールで話が出来ないかと思う。和光市自体の自然環境も自分が子どもの頃と大きく変わっていて、大人から子どもに伝えないとなかなか発見しづらくなっている。地域に住んでいる方は子どものいない方や独身の方もいっぱいいるのでそういう人をどう巻き込むかが課題。子どもと地域の人との顔が見える関係をどう作るかが課題。PTAの仕組みが現代に合っていない。親の負担と先生の負担の分散が必要。

和光自然環境を守る会では越戸川の清掃活動を中心に行っており、数年前には魚が戻ってくる川になった。学校と協力し、子どもたちの魚の勉強に使ってもらっていて、越戸川を愛する子どもが増えている。このような活動を続けていけば将来にわたり川を守ることができると思う。

和光に来た新任の先生などに和光の自然を知ってもらったりしている。外部の人が学校に入ることになるので、先生の迷惑にならないようにする必要がある。学校の部活も運動部ばかりではなく、文科系にももっと力を入れてほしい。文科系であれば地域の方ももっと協力できると思う。

西大和団地は高齢化が進んでおり、防災訓練等で若い力が足りず第二中学校にお願いして協力して行っている。団地のお祭りの演奏もブラスバンド部に協力してもらっている。

質疑

Q、下新倉小学校で併設の公共施設の活用について課題等はあるか。

A、総合施設ということで地域での関心は高い。地域と学校のリンクは大切だが、子どもたちの使用する時間の確保が重要。先生の負担が非常に増えるので、どうやって先生の時間を確保するのか、国のほうでも考えていく必要がある。施設は大変有用です。

Q、学校の運営方針に対する相互理解はどのようになされていると思うか。

A、地域性はあると思います。5小では学校のほうからお願いすることもありますし、学校としても最大限協力したいと思う。ふらっと学校に来て話をしていただける環境は整えている。

北原小では学校に対するご理解が非常に厚く、一度運営協議会をやれば地域の方々への情報発信やご意見をいただくことが可能。子どもたちが地域の方の顔が見える関係をどう構築していくかが今後の課題。

Q、学校の先生として、どのように地域と関わっていくべきかの課題に対する解決方法はあるか。

A、特別支援学級等も増えているが、マイノリティの方は今後増えていくと予想されるし、地域としてもマイノリティの子どもに対する支援は特に重要だと考える。そのような支援がしっかりと出来る教育環境でありたいと地域としても願う。

既に越戸川の清掃等授業の中で行っているので、新たな取組を増やすというのは時間的にもかなり厳しくなるので、中身を掘り下げていく方向で考えている。

Q、和光市は地域と関わりが薄い方も多く住んでいて、そのような方にコミュニティスクールとしてはどうアプローチするのか。

A、課題の一つとして認識しています。学校でスポーツの指導者と呼ぶなりパソコンの指導と呼ぶなり、有償ボランティアとしてでも、人材発掘の視点で知的財産として学校に提供できるようなことも検討している。

議会報告会意見交換記録メモ

第2グループ(第2委員会室) 新倉小・本町小・第4小・広沢小・大和中・第3中

「コミュニティスクールについて」

- ・新倉小学校の学校運営協議会の1年間の取り組みとして、見えてきたことは、地域とのつながりが持つことができるようになった。また、会議の中では、教師の働き方に関してなどの意見があった。また、子どもたちの様子がより一層分かるようになった。地域のイベントに一般教師の参加がなく残念との声もある。「コミュニティスクール」に関して学校のホームページに記載されているため、色々な方に見てもらえることができる。昨年度は新倉小学校においては、5回会議が開かれ、議題については校長が提案(投げかけ)をした。
- ・広沢小学校では、第2回学校運営協議会が終了したところで、議題はその時に集まったメンバーで決めている。地域の特性がある。
- ・本町小学校は、本格的にはこれから始まっていく。地域の方が、どれだけ協力出来るのか不安。また今後PRをしていく必要がある。地域の文化展に児童の作品を入れていきたい。
- ・大和中学校は、今年度からスタートする。また、学校運営方針、5月に決まる。小学校区が5つある為、広域となり、課題が山積している。
- ・第3中学校は、学校運営方針は引き継いでいく。集まった方の得意分野を活かし、活躍して頂く。5つの分野(学習支援、防災、福祉、環境、生徒指導)
- ・第4小学校は、環境問題に取り組んである。小学4年生は学区探検、小学5年生では林間学校と自然観察に力を入れている。学校教育に活かして欲しい。
- ・教員の実情として、教師の残業時間問題は難しい。小学校と中学校の違いもある。小学校は教科の多さ、中学校は部活動。また若い教員が増える一方、中堅の教員が少ない。中堅教師と新任の教師が協力していく必要がある。
- ・学校評議委員会から学校運営協議会への移行。心構えがだいぶ変わった。見ること、聞くことが多くなった。
- ・広報活動、ホームページの充実。地域の願いを出していただき、また聞いていく。学校教育の中で地域の方の力を借りて、参加を促す必要がある。地域が学校を支えていく。